

平成 29 年度(2017 年度)

日本特別活動学会 第 4 回 実践事例募集事業

推 奨 事 例

事例番号 4 - 4

自発的・自治的な活動を位置付けた学級経営

— 一人一人が役割分担を遂行する活動を通して —

福岡県直方市立直方北小学校 西 村 仁 志

実践テーマ	自発的、自治的な活動を位置付けた学級経営 ～一人一人が役割分担を遂行する活動を通して～
実践区分 ○囲み	学級活動・ホームルーム活動 児童会・生徒会活動 クラブ活動 学校行事 その他（具体的に ）
実践事例の背景、ねらい、意義など	新学習指導要領の総則と特別活動には、「学級経営の充実」が位置付けられた。学級経営の充実には、学級活動（1）における自発的、自治的な活動が重要であると示されている。学級経営をよりよくしていくために、自発的、自治的な活動を1年間繰り返し行ってきた。例えば、「5-1 駅伝大会」、「クリスマス集会」等の議題で学級会や学級集会活動、係活動である。このような自発的、自治的な活動において一人一人に役割分担をさせ、責任を持って自分の役割を果たすことで、友達同士の関わりが増え、よりよい人間関係を気づいていこうとする態度が育っていくと考えた。本実践事例では、「5-1の思い出を形に残そう」を示した。そして、1年間の児童の変化は自発的、自治的な活動を位置付けた学級経営による成果だと考える。
実践の時期	平成 28 年 4 月から平成 29 年 3 月

1 児童の実態

(1) 学級の四月の実態 (5年生 27名 男子12名 女子15名)

前年度までは、共通の目的を意識して活動が行われていなかったため、集団として成立していなかった。また、人間関係に課題を抱えた児童が多く在籍していた。

そこで、学級経営の充実のために、自発的、自治的な集団活動を位置付け、友達同士の関わりを増やし、よりよい人間関係を築こうとする自主的・実践的な態度を育てる必要があると考えた。学級として友達同士の交流が活発で、人間関係の固定化ではなく、みんなが誰とでも関われる集団になってほしいと考えた。

(2) A児の四月の実態

4月に、課題を抱えた児童の一人として、A児をあげる。A児は休み時間にいつも本を読んで一人で過ごしている。また、「友達と関わるのは面倒だから一人で居たい。」と保護者に話していた。友達が話しかけても、会話が続かないという様子が見られた。

2 学級活動(1)の実践

(1) 議題 「5-1のマークを形に残そう」

(2) 提案理由

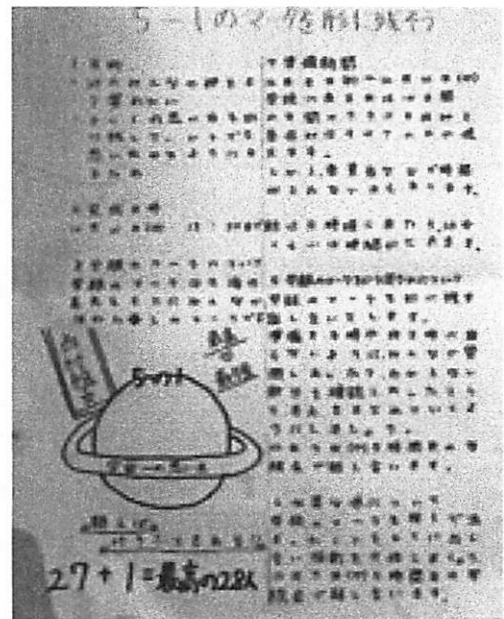
5年1組は係活動や集会活動をしてきて、27人みんな思い出をつくってきました。しかし、6年生になってクラス替えがあれば、このメンバーもバラバラになってしまいます。でも、5年1組での思い出を忘れたくはありません。そこで、後で見返した時に5年1組のことを思い出せるようなものを作りたいと思い、今回の議題を提案しました。

(3) 話合いの柱

- ① 5-1のマークをどう使うか
- ② 必要な係について

3 事前の活動

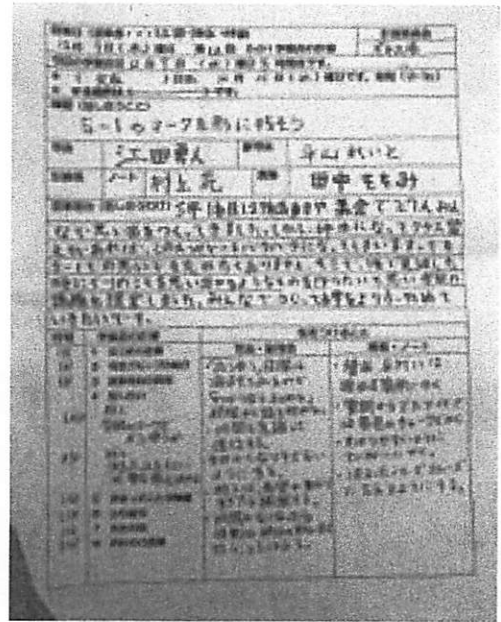
一人の子が、5-1のマークを日記に書いてきたので、それを全員に紹介すると、「僕もほしい。書いて。」という声が上がった。また、休み時間には、「5-1は6年生になったらクラス替えがあるし、クラスのみんなども離れてしまうと思うから、マークを形に残したい。」と言った子に、議題に提案することをはたらきかけた。その後、計画委員会が全員に確認をとり、議題を選定して学級会の活動計画と、活動において決まっていることなどを示した全体計画を作成していた。



「5-1のマークを形に残そう」の活動計画

4 学級会

柱1の「5-1のマークをどう使うか」の話合いでは、「スタンプにする」「プラ板にする」「シールにする」「コースターを作る」の意見が出された。スタンプは作成に時間がかかるのではないかという意見が多く出された。しかし、「上手にはできないかもしれないけど作ってみたい」「みんなでしたらできるんじゃないか」という肯定的な意見が多くを占め、「スタンプ」「プラ板」「シール」の三つをつくることで合意形成を図った。柱2では、「必要な係について」話し合った。例えば、プラ板作りでは、「下絵をかく係」や「オーブンで焼く係」、「ひもを通す係」など役割を分担し全員が何らかの仕事を担当するように配慮した。決まったことをもとに役割を決めた。



学級会の活動計画

5 事後の活動

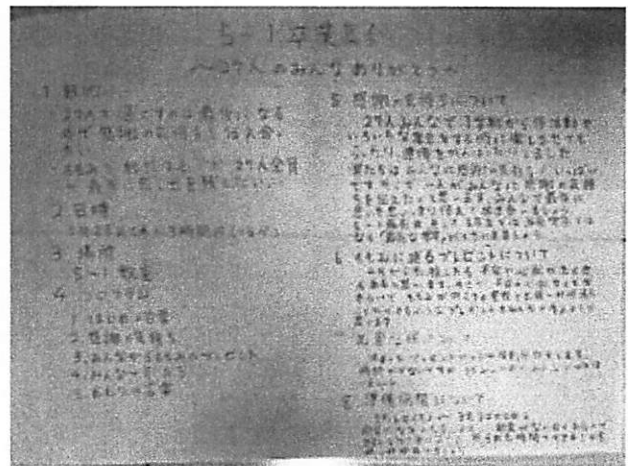
実践へ向けて、役割ごとに昼休みなどを活用し、準備を行った。普段あまり関わっていない子どもで、楽しそうに準備を進めていく姿が多く見られた。作ったスタンプを自分のノートに押ししたり、プラ板をランドセルに付けて嬉しそうにしたりする姿が見られた。



学級のマークのスタンプ A児が役割を果たす様子

6 学年末の様子

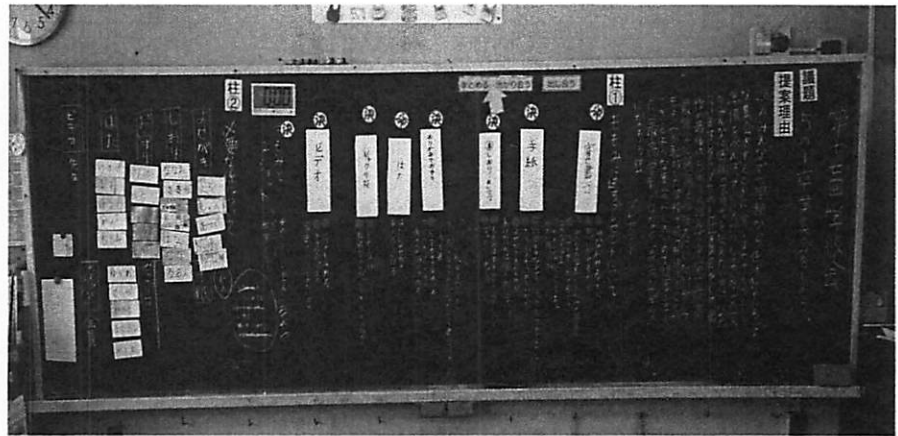
学年末を迎える頃に、A児の転校が決まり、児童に教師から「A児さんは5年生の終わりで転校します」と伝えると、「残りの期間は係活動でA児が楽しいと思えるようにしたい」「A児との思い出を残したい」「A児が転校してしまうのは、悲しいけど向こうの学校でも頑張れるような会をしたい」という声があがった。「転校するA児に対して一人ずつ最後に思いを伝えたい」という願いから、「5-1卒業集会」を計画した。



5-1卒業集会の活動計画

学級会では「A子にどんなプレゼントを送るか」という内容で話し合いを行った。5年生が終わる1ヶ月間は「A子のために」という気持ちで一人

一人が役割を果たしていく姿が見られた。そして、修了式の前日には、5-1卒業集会を行い、一人一人が一年間の仲間に対する思いやA子へ向けてのメッセージをおくった。



5-1卒業集会の学級会の板書



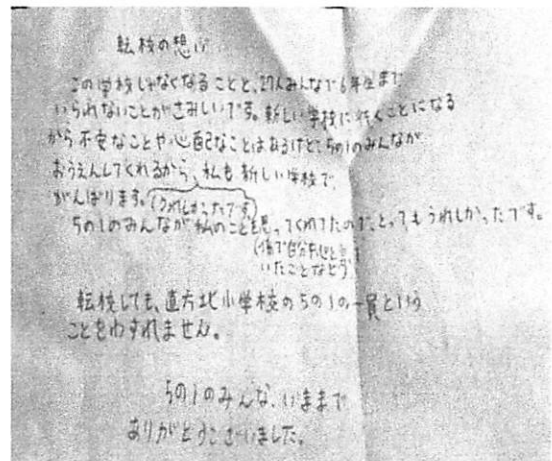
集会の最後に学級歌をうたっている様子



A 児に向け言葉を送る学級の友達

A 児からの学級のみんなへ送られた手紙の内容

この学校じゃなくなることで、27人みんなで6年生までいられないことがさみしいです。新しい学校に行くことになるから不安なことや心配なことはあるけれど、5年1組のみんなが応援してくれるから嬉しかったです。私も新しい学校で頑張ります。みんなが「残りの期間は、A 児が中心になるようにみんなで頑張ろう」と私のことを思っていてくれたのでとっても嬉しかったです。転校しても直方北小学校の5年1組の一員ということを忘れません。みんな、今までありがとうございました。



A 児からの学級のみんなへの手紙

7 成果と課題

成果

一人一人が役割分担を遂行する活動を位置付けて自発的、自治的な活動を一年間繰り返し行うことで、友達同士の関わりが増え、よりよい人間関係を気づいていこうとする態度が育ってきた。友達との関わりが苦手であったA 児からの手紙の内容からも自発的、自治的な活動を通して友達に対する見方や考え方が変わったと考える。

課題 客観的なデータに基づく評価についての研究が必要